

## 豊島宣言

傷つき汚されたかけがえの無いふる里を、再び豊かな島へと蘇らせ子孫に託すことは、私たちのだれもが持ち合わせる心からの願いであります。

この島では、わが国最大といわれる有害産業廃棄物の不法投棄が起きてしまいました。

それは、健康と生活への不安や行政への不信を引き起こしただけではなく、「安らぎの島」を「ごみの島」「毒の島」へと塗り替えてしまうものでした。

海岸に横たわる膨大な廃棄物は、「命の尊厳」を現代社会が置き忘れてきた証ではないでしょうか。

過密から過疎へと一方通行の廃棄物は、全国の過疎地で、歴史を越え次の世代への巨大な負の遺産になろうとしています。

この事実は地域を越え時間を越えた差別に他なりません。私たちは、「誇りをもって安心して生きられるふる里」を次の世代に託したいという当然のことを、願っているだけなのです。

そのために必要なならば、島内での中間処理による無害化とそれに要する時間については、私たちが負うことを覚悟もいたしましょう。

しかし同時に、この事件の解決は、今後の廃棄物対策を左右する問題でもあります。

捨て場の無いごみを弱者に押し付けられるのではなく、不法にして安易な過疎への投棄廃棄物を排出元へ返し、廃棄物の「ゆくえ」を明らかにする以外に、次の世代へと続くリサイクル社会への道はありません。

ここに、この会場にご同席の皆様のご賛同を得て宣言いたします。「私たちは、豊島の廃棄物のゆくえを明らかにし、廃棄物問題が招く次の世代への差別を断ち切る決起とし、汚された美しい島を自らの手で再生し子孫に託すため、ここに廃棄物の撤去を求めます。」

平成八年一月一日

廃棄物対策豊島住民会議